

白藍塾オリジナル

2014入試小論文分析&解答のヒント

2014年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志

●慶応・総合政策学部

総合政策学部では、ここ数年、天下国家を広い視野で論じるような問題が続いていたが、今年度は、その点、かなり異色だ。また、問1・2では、複数の資料の論点を整理することが求められているが、これは総合政策ではおなじみのタイプの問題だろう。

問1は、資料1と2の学説の違いを説明する問題。資料2は、そもそも資料1のような中国史の見方を批判している文章なので、その点に注目すればまとめやすい。簡単に言えば、資料1が、「西洋の影響を中国がいかにかに受容し、それに反応したか」という視点でしか見ていないのに対し、資料2は、中国国内の社会的変動や、中国と西洋との相互影響も考慮に入れるべきだと主張している。そうしたことを、基本型AかBを使ってまとめればよい。

問2は、問1の答えを踏まえて、資料3と4の違いが生まれた背景を解説する問題。800字と字数は多いが、小論文ではなくて説明問題だ。資料3と4の発行された順序を考えれば、資料3が資料1の、資料4が資料2の見方にもとづいて書かれているのだろうと想像がつくはずだ。

二つの資料の違いは、大きく言えば、次のようになる。資料3があくまでも清帝国の弱体化に乗じた欧米列強や日本の勢力拡大が一方的に進んだかのように説明しているのに対し、資料4では、中国側の主体的な対応や、欧米・日本との関係もそれほど一方的なものではなかったことを、詳細に記述している。そうした違いの背景にあるのが、問1の答えにあるような中国史の見方の違いだ。つまり、すべてを「西洋の衝撃と中国の反応」の図式で説明しようとする資料3と、そうした図式に当てはめるのをやめて中国国内や国際情勢の変動をできるだけ具体的に追おうとする資料4、という違いがあるわけだ。

書き方としては、基本型Aを応用して、最初に上で挙げたような二つの資料の大きな違いを示す。次に、「アヘン戦争」「太平天国と洋務運動」「日清戦争」などの主要な出来事ごとに、二つの資料の説明がどのように違っているかを具体的に説明する。そして最後に、そのような違いの背景に、資料1・2に見られるような中国史の見方の違いがあることを説明すればよいだろう。

問3は、自分が一番親しみにくかった科目をあげ、その科目の教科書の改良点を提案する問題。どちらかと言えば、環境情報学部でよくあるタイプのプレゼンテーション問題だ。

問1・2と関連付けるのは難しいので、そこはあまり考えず、問題点と改良点がきちんとか

み合うように注意して書けばよいだろう。たとえば、「日本史や世界史は、遠い過去から学び始めるが、現代とのつながりがわかりにくいので興味が持てない。現代史から始める教科書にするほうが親しみやすい」「理科は、定説やすでにわかっていることしか教えないので、好奇心を持ちにくい。もっと最新の発見や、研究者がまさに議論し合っているようなトピックを盛り込んで、科学のおもしろさを実感できるような教科書がよい」「英語の教科書は、文法の説明がほとんどで、生きた英語力がつきにくい。文法などは後回しにして、実際に使える英会話のフレーズをいろいろな場面で練習できるような教科書のほうが役に立つ」などなど、いろいろと考えられるはずだ。

第一部でどの科目かをあげ、第二部で、その科目がなぜ親しみにくかったのか（とくにその科目の教科書のどこに問題があるのか）を説明する。そして、第三部で、教科書をどう改善すればよいのかを説明するとよい。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>